

5. 地域協議会からの報告（要旨）

1 地域との連携について

（1）地域との連携の在り方

- 高校の在り方を検討するに当たっては、地域における高校の果たすべき役割を明確にするとともに、単に高校だけでなく、地元自治体におけるまちづくりや地域活性化策、小・中学校の将来計画などとも連動させることが必要である。
- 郡部のメリットは、豊かな自然や第1次産業の生産物を生かせることである。地元自治体や産業界等との幅広い連携協力の下、生徒のリアルな職業体験や地域行事への参加など、郡部ならではのキャリア教育が、地域活性化にもつながるものとする。
- 学校運営の在り方からすると、保護者や地域の方々の声を生かす仕組みとして「学校運営協議会」の導入も、一つの方法として考えられる。

（2）郡部での新しい高校の形の検討

- 郡部で小規模校化していく高校については、県立高校単体で考えるのではなく、地元自治体、民間との連携・融合を図るなど、これまでの発想にとらわれない新たなスタイルの検討も必要である。
- 具体的には、
 - ・小・中学校に高校を巻き込んだ「9＋3」（小・中・高12年間一貫教育）の学校
 - ・学校規模が大きくなることで活性化が図られる中高が同居する中高校舎一体型
 - ・子供たちの様々なニーズに応えることができる総合大学のような高校
 - ・地域の高齢化への対応にもつながる社会福祉施設との合築
 - ・障害を持った子供たちの過密化対策も兼ねる特別支援学校の分校との併設
 - ・県立高校の市町村立高校への転換などが考えられる。

2 求められる高校像について

- 郡部の高校は、子供たちの多様なニーズに応えるとともに、社会に踏み出す力を身に付けさせ、郷土に誇りと愛着を持った子供たちを育てる必要がある。
- 夷隅地域における求められる高校像は、
 - ①「即戦力として、地元の地場産業の後継者や担い手を育成する高校」
 - ②「学力を向上させ、進学への期待に応え、将来、地域に貢献できる人材を育成する高校」と考える。

3 理想的な学校配置について

○ 郡部にあっても、子供たちの多様なニーズに応え、生徒同士が切磋琢磨する中で、充実した教育活動を展開し、社会に送り出していくためには、一定の学校規模は必要であり、夷隅地域の県立高校4校を段階的に集約していく方向性はやむを得ない。

なお、集約に当たっては、様々な学びを備えた総合大学のような高校を1校設置することや「求められる高校像」を集約した高校で担うことなど、地域にあったより魅力ある高校となるよう配慮するとともに、通学の利便性の確保などの条件整備も必要である。

4 協議を終えて

○ 生徒減少の著しい郡部、多様な生徒が集中している都市部、それぞれに課題は多々あることと思うが、県教育委員会には、ここでの議論を是非、他の地域にも生かしていただきたい。

